

「土砂災害で考えたこと」

長野県 泰阜村立泰阜中学校 3年 脇坂 梨恵子

土砂災害は、とても恐ろしい災害だ。建物や土地をすべて飲み込み、時には人の命を奪ってしまうのだ。最近も、土砂災害が起こり人が亡くなってしまったり、道路や線路を塞ぎ、交通網にも被害を及ぼしたりしているニュースを、よく見かける。このようなニュースを見かけると、すごく悲しい気持ちになると同時に、自分の住んでいる場所でも、人の命を奪うような大きな土砂災害が起こったらどうしようと前までは思っていた。しかし、自分の住んでいる場所でも、今年土砂崩れが起きた。その土砂崩れは人が巻き込まれることはなかったが、私が見た中では最も大きな土砂崩れだった。

私の住んでいる場所は小さな村で、山に囲まれている。大きな施設や目印になるような建物などはない。だから大雨が降ったとき、小さな土砂崩れが起こることが度々あった。しかし、今年起こった土砂崩れは、人が巻き込まれてもおかしくはない道路があるところで起きたのである。その土砂崩れは大雨が降った日の午後に起きた。私の母が帰宅する前には、もう土砂崩れが起きていて通行止めになっていたそうだ。もし、帰宅するのが少し早かったら土砂崩れに巻き込まれていたかもしれないと思うと、ぞっとした。だが、どれくらいの土砂崩れが起きたのか、被害はどれくらいだったのか、そのときには分からなかったので、そんなに大きな土砂崩れではないと思っていた。

次の日の朝、学校に行くバスで土砂崩れが起きた道の手前まで行った。バスからは土砂崩れの起きた場所は見えず、そのまま違う道に曲がって学校に行くことになった。その道は数日間通行止めになり、なかなか通行止めが解除されなかった。私は、早くその道が通りたいという気持ちでいっぱいだった。どれくらいの被害だったのか確認したかったからだ。

そして、数日後に通行止めが解除され、やっとその道を通ることができるようになった。最初は何も被害がないように見えたが、途中砂ぼこりで前が見えにくくなった。雨水で流れた土砂が固まり、車が通る度に砂ぼこりが舞っていたからだ。そこから少し進むと、土砂崩れが起きた場所があった。土砂は片付けられていたが、ガードレールは変形し土砂がかかっていた。しかも、村で土砂崩れが起きたのは一箇所ではなく、数箇所もあった。私は、それを知って恐怖を感じ、土砂崩れの威力を思い知らされた。もし、その道を車が通り、巻き込まれていたら怪我だけでは済まなかったかもしれない。

私は、この土砂崩れが起きてから学校で学んだ土砂災害についてのことを思い出してみた。土砂災害について学ぶ機会は少ないと思うが、私の学校では学ぶ機会が多かった。

一つ目は、避難経路を考えたことだ。タブレットを使い、家から自分の地区の避難場所までの経路を調べ、タブレットに書き、そのときに必要な物も考えた。例えば、食料、水、服、貴重品などである。これを授業で行ったことで、家族で共有することができ、自分達は避難するときの準備を全くしていないことにも気付くことができた。

二つ目は、体験型の学習が行われたことだ。体験型の学習では、キャラクターのライブショーと体験学習が行われ、子供でも分かりやすい説明だった。体験学習では、実際に公衆電話使って災害用伝言ダイヤルを使ったり、段ボールベッドに寝てみたりした。その他にも、模型を使い、がけ崩れが起こる仕組みを学ぶということもした。防災士の方やボランティアの方から説明を受け、とてもわかりやすく楽しい学習だった。このような学習を行うことは、土砂災害が起きてから、とても大切だということに気付いた。

しかし、すべての人が土砂災害について考え、準備をしているのだろうか。避難訓練はしていても、実際に体験したり授業で行うことは少ない。私は、皆が土砂災害の恐ろしさを理解し、防災グッズの準備や災害の起こる仕組みを知っておくことができれば良いと思う。

土砂災害は、いつどこで起きるか分からない。自分は大丈夫と思っている人も大切なものを失ってからでは遅い。土砂災害について考え、準備をしておくべきだ。